

# 豊橋総合動植物公園における アジアゾウの飼育方針



令和 3 年 5 月

豊橋総合動植物公園

## もくじ

|                    |    |
|--------------------|----|
| 1. アジアゾウとは         | 3頁 |
| 2. 豊橋市とアジアゾウとの関わり  | 4頁 |
| 3. アジアゾウを飼育する目的    | 5頁 |
| 4. アジアゾウを飼育するための条件 | 6頁 |
| 5. アジアゾウの飼育方法      | 8頁 |
| 6. アジアゾウ飼育の将来像     | 9頁 |

## 1. アジアゾウとは



アジアゾウは長鼻目ゾウ科に属し、アフリカゾウと並ぶ陸上最大の脊椎動物です。体長は5～6m、体高は2.5～3m、体重は3～5tになります。インドやスリランカ、東南アジアの国々及び中国南部等の森林や草原に生息し、数頭から十数頭の雌と仔からなる群れを形成します。

古来より人との関わりがあり、運搬などの使役に従事する他、戦争の道具としても利用された歴史を持っています。一方で、その巨体と独特の姿から神聖視され、崇め恐れられる存在でもありました。

19世紀以降、象牙の利用による乱獲や、人の生活圏の拡大による生息地の減少により生息数を減らし続け、近年の生息数は3,500～5万頭と推定されています。IUCNレッドリストでEN（絶滅危惧ⅠB類）に位置付けられ、ワシントン条約で付属書Ⅰに掲載されている希少種です。

## 2. 豊橋市とアジアゾウとの関わり

豊橋総合動植物公園では、前身の「豊橋市動物園」が開園した 1954 年に雌のアジアゾウ「豊子」の飼育を開始してから現在まで、半世紀以上にわたりアジアゾウの飼育を継続しています。

過去には国内の多くの動物園が雌を単独で飼育していましたが、豊橋ではその頃から雌雄ペアでの飼育を行い、繁殖にも積極的に取り組んできました。その結果、2 頭の雌による4度の妊娠と2回の出産、さらには人工哺育も経験することとで、繁殖に関する実績を積み上げてきました。

現在も、飼育環境の改善や他園との連携協力による繁殖の推進など、本種の飼育に積極的に取り組んでいます。

上記のように、豊橋の動物園はアジアゾウの飼育について長い歴史を有しており、国内でも特筆すべき成果を上げてきました。



### 3. アジアゾウを飼育する目的

#### ① 生息域外保全の推進

アジアゾウは生態系への影響が大きい「キーストーン種」に位置付けられる動物ですが、生息数の減少により絶滅が危惧されています。動物園は、「種の保存」を推進する施設として機能することが求められており、絶滅危惧種であるアジアゾウの生息域外保全施設として飼育繁殖に取り組み、生息域内個体群のバックアップを確立すべく、保全活動を推進する必要があります。

#### ② 生息域内保全への貢献

絶滅回避のためには生息地保全の取り組みも必要であり、そのためには生息地の産物を利用している日本の人々の理解と協力は不可欠です。しかし、馴染みのない動物や地域をイメージして、配慮や手を差し伸べることは容易ではありません。動物園で実際に生きたアジアゾウを目の当たりにすることで、アジアゾウやその生息地に関する理解を深め、生息地での環境問題や保全の取り組みを身近なこととして理解し、考え、行動してもえるよう、環境教育活動を推進する必要があります。

#### ③ 調査研究の推進

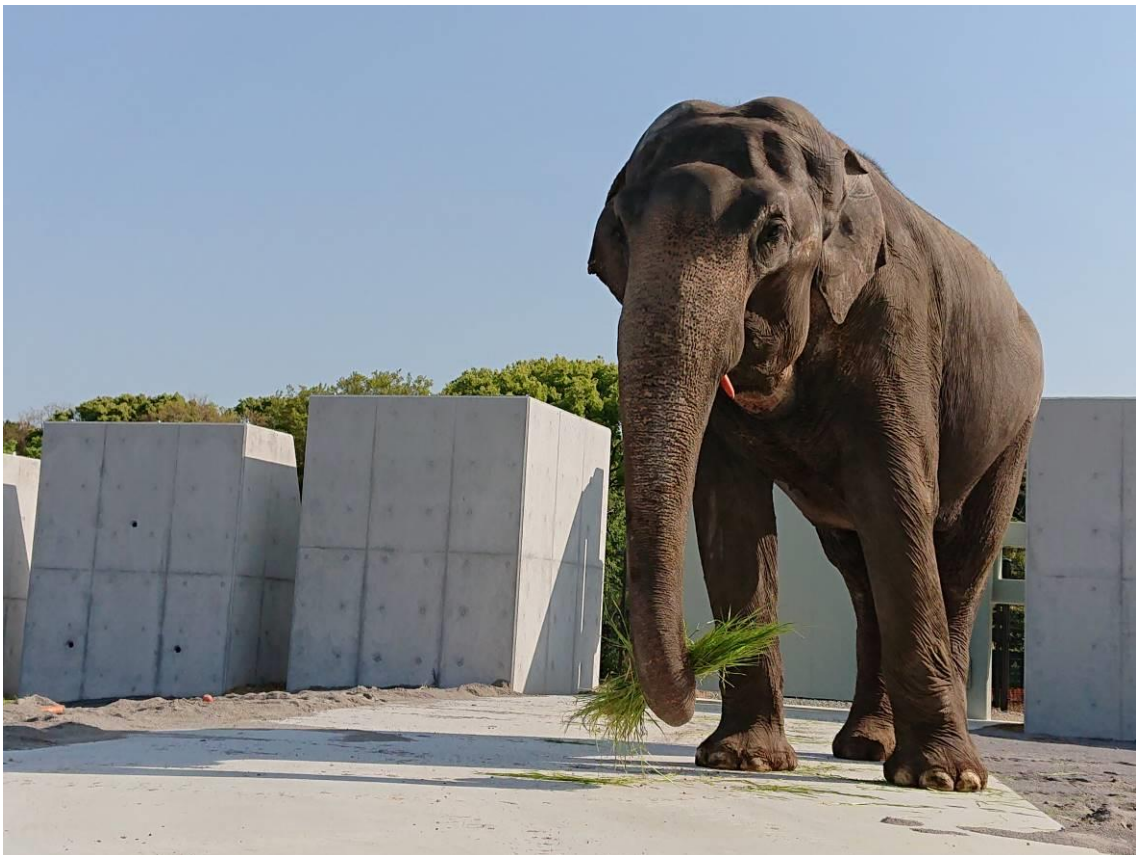
ウシやブタのような家畜や、イヌやネコといった愛玩動物と異なり、アジアゾウの生態や生理は十分に解明されているとは言えません。生体を飼育している動物園は調査研究を実施できる貴重な場であり、本種の保全を推進するためにも、新たな知見の集積を推進する必要があります。



## 4. アジアゾウを飼育するための条件

### ① 飼育個体

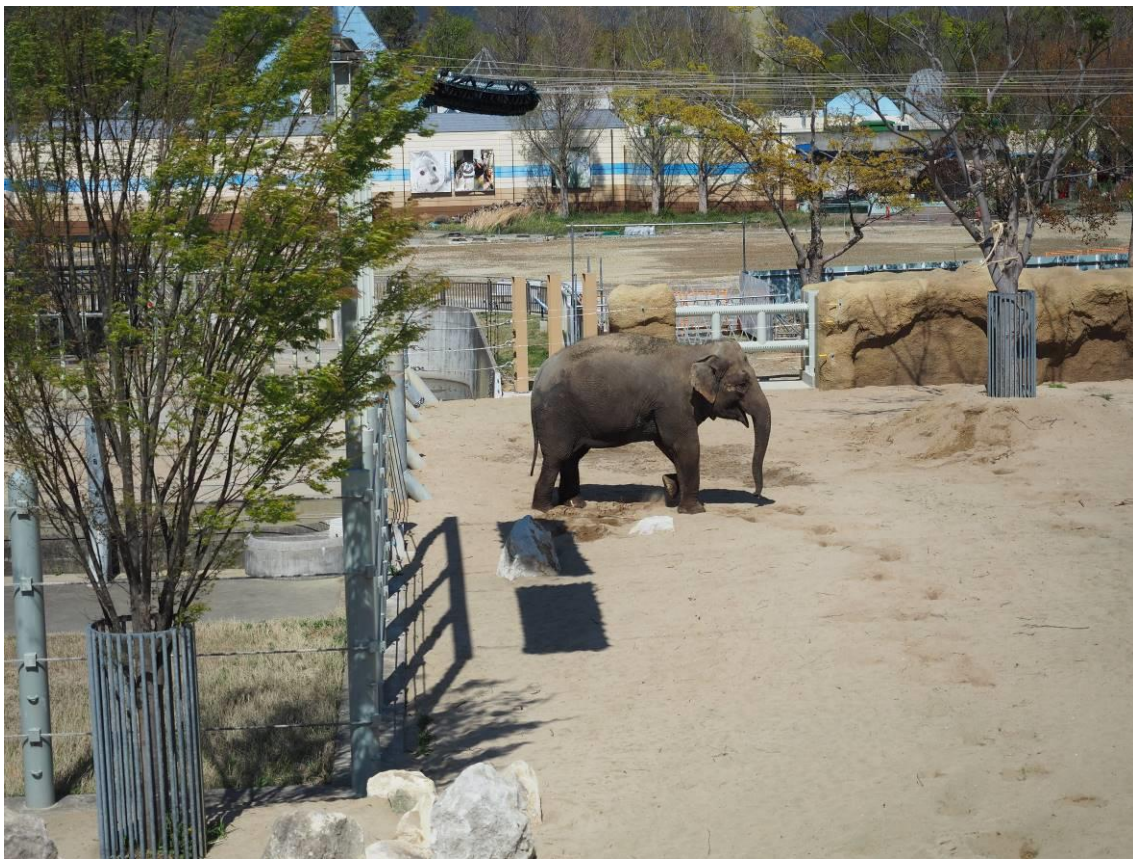
生息域外保全や環境教育などの取り組みには、繁殖可能な複数頭のアジアゾウが飼育されていることが必要です。豊橋総合動植物公園は、繁殖実績のある雄のダーナを初めとする複数頭のアジアゾウを飼育しています。また、国内外の他施設との連携により個体の施設間移動も積極的に進めており、必要な頭数の飼育を継続することが可能であると言えます。



### ② 飼育施設

野生動物の飼育には、その動物に適した施設を備えていることが求められます。アジアゾウは体が大きく群れで生活する生き物であるため、広い屋外放飼場や屋内寝室が必要とされます。豊橋総合動植物公園は 5,900 m<sup>2</sup>の放飼場（令和3年4月現在）や複数の屋内寝室、安全な飼育を行うための各種設備等を備えており、本種を安全に群れで飼育することが可能な施設を有していると言えます。

また、現在の動物舎の周辺に拡張可能な平坦な敷地を有しており、将来の飼育頭数の変化に応じて、施設を拡張することも可能です。



### ③ 飼育技術

野生動物を飼育するためには、その種に関する幅広い知識や飼育技術を有していなければなりません。豊橋総合動植物公園は、長年アジアゾウの飼育を継続し、日常の飼育管理に関することから出産や人工哺育といった繁殖に関することまで、多くの経験を蓄積しており、その経験に基づく飼育のノウハウを活かしてアジアゾウの飼育に取り組むことができます。

### ④ 市民や来園者等の理解

アジアゾウを飼育し、保全や環境教育、調査研究などの取り組みを推進していくためには動物園の所有者である市民や利用者である来園者の理解と支援が必要です。豊橋総合動植物公園は、過去にアジアゾウが複数回繁殖したことから、市民や来園者のアジアゾウへの関心は高く、アジアゾウを通じて様々な取り組みを進めていくことについて理解を得ることができるものと考えられます。

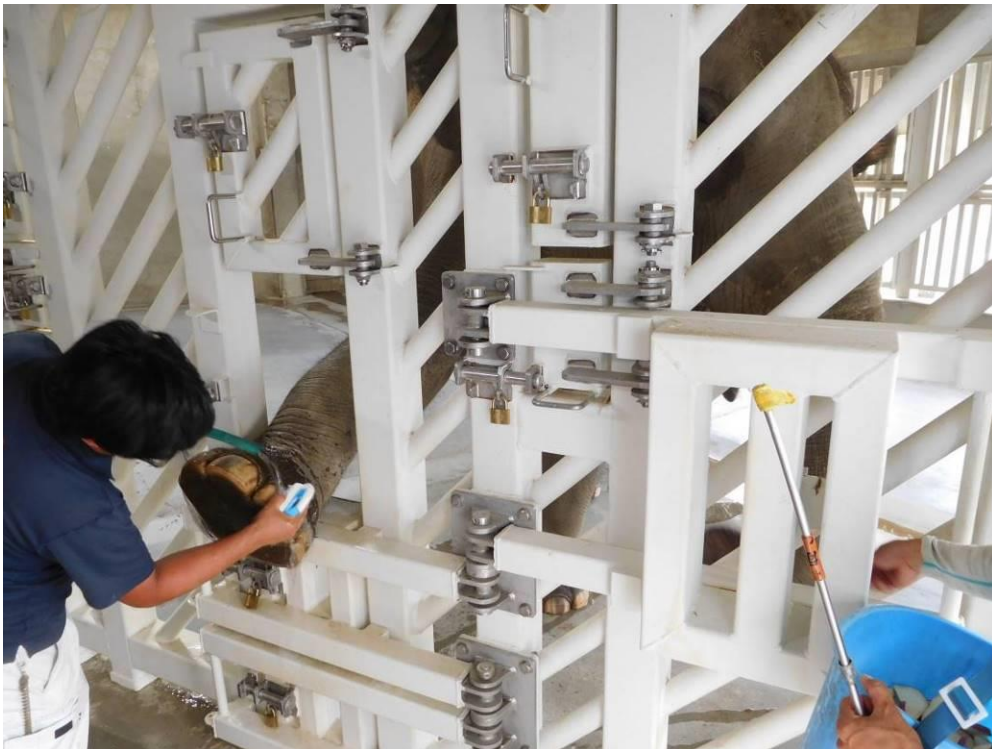
## 5. アジアゾウの飼育方法

### ① 群れ飼育

アジアゾウは、母系の群れを形成し社会性のある暮らしを営む動物であるため、雌と子については原則として群れで飼育を行います。夜間も天候や施設条件、安全対策といった条件に配慮した上で、可能な限り群れでの飼育を行います。

### ② 準間接飼育

日々の飼育は、人もゾウも安全であり、ストレスを軽減できるよう、原則として準間接飼育により実施します。準間接飼育は、群れの個体同士の関係に強く干渉しないため、アジアゾウ本来の行動を発現させることにつながり、動物福祉の面からも望ましいと考えられます。



### ③ 飼育体制

大型動物で力が強いアジアゾウの飼育においては、各地で飼育職員の人身事故が発生しています。また、知能が高く社会性を有する動物であるため、飼育職員との関係性にも配慮する必要があります。職員の安全を確保し、職員と飼育個体の良好な関係を構築するために、飼育作業は一定の経験と技能を持った職員を核とした複数名で行い、技能の継承に配慮した飼育体制の確保や人材の育成を行います。

## 6. アジアゾウ飼育の将来像



### ① 生息域外保全の推進

飼育施設や飼育技術を充実させ、国内外の施設との間で個体の移動を積極的に推進することで、健康な個体による適切な群れを構築し、アジアゾウの繁殖拠点としての機能と実績を確立します。これにより、飼育下個体群の長期的な維持に貢献し、絶滅が危惧されるアジアゾウの生息域外保全に資する施設となることを目指します。

### ② 動物福祉の向上

野生動物の飼育は、動物福祉に配慮したものでなければなりません。動物が精神的にも肉体的にも健康であり、幸福を感じるよう飼育することが求められます。その達成ためには、安全で過度のストレスがかからない環境を提供するとともに、本来の行動を発現させるように取り組む必要があります。従って、アジアゾウの生態に配慮した飼育を進める中で飼育技能の向上を図り、ハズバンドリートレーニングや環境エンリッチメントといった手法を活用することで、動物福祉への配慮が行き届いた、アジアゾウが幸せに暮らせる施設となることを目指します。

### ③ 調査研究の推進

研究機関との連携促進などにより、アジアゾウの生理や生態等に関する調査研究を推進します。それにより、保全や飼育管理に有益な科学情報の蓄積を図り、本種の生息域内・域外での健全な存続に寄与できる施設となることを目指します。

### ④ 理解の拡大

市民や来園者等にアジアゾウの魅力を十分に伝え、生きものの尊さを肌で感じとっていただくとともに、その生息状況や生息地の減少などにも思いを馳せていただき、さらに人とアジアゾウとの結びつきを通して歴史や文化についても興味を抱いていただくことで、情操教育、環境教育、社会教育といった教育普及活動の充実を図ります。こういった教育普及活動の推進によって、人々がアジアゾウに注目し、アジアゾウやそれを取り巻く環境に対する理解を拡大していくことができる施設となることを目指します。

### ⑤ 協働による未来像の提示

来園者や市民とともに上記の取り組みを進めることで、アジアゾウにも人にも有益な施設となり、野生動物や人が将来にわたって持続的に生存していくことができる社会の構築に貢献できる施設となることを目指します。これは、SDGsを推進する豊橋市が運営する豊橋総合動植物公園に求められる姿と言えます。

